

「地域における福祉の推進」

～地域の相談窓口としての取り組み～

平成18年度の介護保険制度改正に伴い地域包括支援センターが設立された。四日市市では各地区の在宅介護支援センターが、地域包括支援センターのランチとして引き続き地域の相談窓口としての役割を担うこととなった。当法人が運営する在宅介護支援センターでは、より地域に根差した施設・身近な相談窓口となるべく、地域住民等を対象とした『介護教室』や『ケアケア交流講座』などを開催している。これらの活動を継続することで、地域住民の福祉に関する意識が高まり、相互扶助力の向上に繋がっている。

社会福祉法人 **永甲会** 〒510-0954 三重県四日市市采女町字森ヶ山418-1
TEL : 059-348-3988 / FAX : 059-348-7761

◆ 法人の概要

法人設立年：平成10年6月

経営施設、事業（数）：1施設 6事業

経営施設、事業（種別）：

- ・特別養護老人ホームうねめの里（特別養護老人ホーム）1施設
- ・特別養護老人ホームうねめの里（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）1事業所
- ・在宅介護サービスセンターうねめの里（通所介護・介護予防通所介護）1事業所
- ・小規模型通所介護事業所うねめの家（認知症対応型通所介護）1事業所
- ・在宅介護サービスセンターうねめの里（居宅介護支援）1事業所
- ・在宅介護サービスセンターうねめの里（在宅介護支援センター）1事業所

◆ 法人の理念・経営方針

【理念】

1. 里人さんの立場に立って考えます。
2. 里人さんの生きてこられた人生、価値観を理解します。
3. 里人さんの声、希望に耳をかたむけます。
4. 里人さんの気持ち、体を傷つけるようなことは絶対しません。
5. 施設は孤立せず、家族・地域との連携を考えます。
6. 法律その他基準に従って運営を行います。
7. 福祉事業の変化と改革の先駆者となるよう、常に組織・運営を見直します。

◆ 実施施設の概要

施設名：在宅介護サービスセンター うねめの里

施設種別：種別：在宅介護支援センター 利用定員：なし

活動開始年：平成18年4月

活動の頻度・時間：・1ヶ月に2回 約60分 『介護教室』
・3ヶ月に1回 約120分 『ケアケア交流講座』

活動の対象者：地域の高齢者 介護をしている家族 民生委員 医療・福祉関係の職員・学生 など

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では、以前より在宅介護支援センターの委託を受け、地域の相談窓口として様々な活動を行ってきた。平成18年度の介護保険制度改正に伴い、地域包括支援センターが設立されたが、四日市市では各地区の在宅介護支援センターが、地域包括支援センターのランチとして引き続き地域の相談窓口としての役割を担うこととなった。このような背景もあり、より地域に根差した施設・身近な相談窓口となるべく、地域住民等を対象とした『介護教室』や『ケアケア交流講座』などを開催している。

実施内容

毎月2回、各地域の老人会の方を対象に『介護教室』を開催している。認知症関連・介護保険制度・閉じこもり予防・転倒予防など、毎年テーマを設定し、できるだけ理解しやすい内容で説明を行っている。参加者の平均人数は10名程度と少人数であるため、質疑応答の時間を多く取り、気軽に意見交換ができる内容としている。

また、3ヶ月に1回の頻度で、実際に介護をしている家族、民生委員、医療・福祉関係の職員・学生などを対象とした『ケアケア交流講座』を開催している。参加者の平均人数は20名程度で、毎回設定したテーマについて講義を行い、グループワークで参加者同士が意見交換や検討を行う内容となっている。講座の最後に毎回アンケートを取り、参加者の意見や希望を次の講座に反映させている。

その他にも不定期ではあるが、『介護体験教室』や、各地域の敬老行事での『頭の老化予防教室』などを実施している。

活動効果

『介護教室』『ケアケア交流講座』共に概ね好評で、参加者からは「良い話が聞けた」「また参加したい」などの声を頂いている。地域住民と在宅介護支援センターの職員が交流

を持つことは、身近な相談窓口として施設を知っていただく良い機会になっており、参加者から「近所の人が困っているみたい」などの連絡を頂くことも増えてきている。

これらの活動を継続することで、地域住民の福祉に関する意識が高まり、相互扶助力の向上に繋がると思われるが、特に認知症について地域住民の理解を深めることは、偏見や差別を解消するためにも重要である。これまでに認知症に関する説明の機会を多く設けてきたが、徘徊のある認知症の方を地域ぐるみでサポートしている事例もあり、ある程度活動の効果が出てきていると思われる。

今後の課題

現在は、当法人の施設内で『介護教室』や『ケアケア交流会』を開催することが多いため、すべての対象者が気軽に参加ができるとは言い難い。今後はより参加しやすいよう、地域の公民館や集会所での開催も増やしていく必要がある。また、地区ごとに考え方などが異なるため、その地区に合った対応が必要であると感じている。

いずれにせよ、今後もこのような活動を継続していくことが重要であると考えており、行政・地域包括支援センター・地域の医療機関などと協力し、内容をより充実させていきたい。

